し，経口摂取・つたい歩行が可能となってきている．

### 3　器質化した脳底槽血腫により難渋した破裂前交通動脈瘤の1例

山下　慎也・佐野　正和・相場　豊隆
県立新発田病院　脳神経外科

【目的】器質化した脳底槽血腫により難渋した破裂前交通動脈瘤の1例を経験したので報告する．

症例は70歳，女性．突然の意識消失で発症，心疾患疑われて，心臓カテーテル検査施行，冠動脈病変認められず，たこつぼ心筋症の診断で内科入院．翌日，見当識障害が出現，頭部CTにてくも膜下出血を認めたため当科に転科．JCS3，失語あり，麻痺なし．3D-CTAにて前交通動脈右前に向く瘤と左外側に向かう細長い瘤を認めた．発症2日後に脳血管撮影を施行，同様の所見であった．左外側に向く瘤は血栓化動脈瘤の一部と考えられ，それを想定しつつ，同日左前頭側頭開頭にてクリッピングを施行した．中大脳動脈，内頚動脈，前大脳動脈周囲は硬いフィブリン血栓で充満，一部鋭的に切離しつつ血管壁を露出．その剥離の最中，前交通動脈未確認の状態で動脈性出血あり．周囲組織を確認，その硬い血栓自体が瘤化しているような所見であった．動脈瘤頚部は確認出来ないまま，2個のクリップを用いてクリッピングした．右前下に向く瘤は典型的な嚢状動脈瘤であり，型のごとくクリッピングを行った．術後脳血管撮影では，動脈瘤の描出は認められなかった．

【考察】血栓化脳動脈瘤は，嚢状動脈瘤，あるいは解離性動脈瘤の瘤内に血栓が形成され，その血栓内に出血を繰り返して大きくなる瘤とされる．一方，偽性脳動脈瘤は，瘤の外膜が破れ，その外に出血し，それが血栓を形成して瘤のような形態になるものと考えられている．

今回の症例では，脳血管撮影の所見と術中所見から，血栓化脳動脈瘤の外膜が破れ，瘤外にも血栓を形成，少しずつ出血を起こして，脳底槽に血栓形成を起こしたものと推察された．渉猟した範囲で本症例のような前交通動脈部の偽性血栓化脳動脈瘤は報告が無く，まれな例と思われた．

### 4　多発脳動脈解離による脳梗塞とくも膜下出血を生じた1例

中村　公彦・竹内　茂和・谷口　禎規
温　城太郎
長岡中央綜合病院　脳神経外科

症例は49才，女性．高血圧症に対し降圧剤内服中．

【経過】2015年，突然発症の頭痛の後会話困難となり当院へ救急搬送された．初診時GCS：E4V5M6，運動障害なし，感覚性失語症を認めた．頭部MRI/Aにて左側頭ー頭頂葉に新規虚血巣および左中大脳動脈に狭窄を認めた．心電図上心房細動はみられなかった．後療法はアピキサバン10mg/日内服とした．day10，心精査のための経食道エコー中にくも膜下出血を発症し，重度意識障害（JCS100），右片麻痺（MMT3）を生じた．3D-CTA，脳血管撮影では左中大脳動脈に動脈解離性変化を生じており，それによる脳梗塞，くも膜下出血であろうと一元的に考えていた．しかし同時に左前大脳動脈にも解離を疑わせる数珠状変化および同領域の虚血巣が生じていた．day22に施行したMRAにて左内頚動脈外側に入院時にはみられなかった動脈瘤の所見あり，day24の脳血管撮影にて明らかな内頚動脈仮性動脈瘤が確認されたため，同病変がくも膜下出血の原因である判断した．Day25に動脈瘤トラッピング術施行，手術により前脈絡叢動脈が閉塞し重度右片麻痺が生じた．Day48の脳血管撮影では左前大脳動脈，中大脳動脈の解離性変化は改善していた．Day57，意識清明，中等度感覚性失語症，右片麻痺（MMT3）の状況で転院となった．

【考察】頭痛に続く脳梗塞の症例であり画像所見からも左中大脳動脈の解離が生じたものと考えられる．特異的なことはその後左前大脳動脈にも解離性変化および虚血が生じ，左内頚動脈に仮